

## 新センター長挨拶

# 病理診断センター

病理診断センター センター長  
病理診断科 常勤顧問

## 大林 千穂

奈良県立医科大学 昭和57年卒業

- 日本病理学会専門医
- 日本臨床細胞学会専門医・指導医
- 病理専門医研修指導医
- 細胞診教育研修指導医



本年4月に病理診断センター長を拝命いたしました。前任地は母校である奈良県立医科大学で、10年間病理診断学講座を主宰いたしました。それ以前の25年間のホームグラウンドは神戸であり、神戸大学附属病院や兵庫県立がんセンターで勤務しておりましたので、再びこの地で診療できますことを大変嬉しく思っております。自己紹介とともに、病理診断センターの展望を述べていきたいと思っております。

病理医としてのキャリアをスタートした聖路加国際病院は、当時すでに院内で「病理科」を標榜していました。同科には、びまん性汎細気管支炎(DPB)の疾患概念を確立された山中晃先生がおられ、肺病理では全国的に知られていました。門前の小僧程度に肺病理を学びましたが、研修医にとって得難い経験であったのは年間200件もの解剖でした。臨床医の列挙する疑問点を解明し「doctor of doctors」の役割を果せる場合がありますが、様々な合併症や医行為の修飾があり、直

接的な死因を明確にできないことも屡々あります。残念ながら現在、コロナの影響もあり、剖検数が減少していますが、人体をくまなく観察、正確に所見採取し、死へのプロセスを検証し、臨床医にフィードバックする作業の重要性は変わっていません。剖検CPCは研修医が全人的な医療を学ぶ重要な機会であるとともに、地域の先生方との交流の機会と考えております。紹介元の先生にもCPCにご参加いただき、より深い議論が為されるようにしたいと思います。

神戸時代には放射線科、呼吸器外科、呼吸器内科、病理から成る呼吸器グループで、全例カンファレンスを通して各々の立場で、診断や治療選択について侃侃諤諤の議論があり、多くの勉強をさせていただきました。HRCTやMRIなど画像診断の進歩、縮小手術の探求、そして近年はがんゲノム医療と、腫瘍領域には次々にビッグウェーブが押し寄せ、病理医はこれに翻弄されている様に感じることがあります。

しかし、病理診断科の責務は各科が最善の治療を選択できるよう、適切な情報を提供することです。とりわけ国指定のがん診療連携拠点病院に認定された神鋼記念病院にあって、病理部門が、がんゲノム医療に果たす役割は大きいと考えています。悪性腫瘍の病理組織や細胞検体を用いた体細胞遺伝子検査は急増しており、次世代シーケンサー（NGS）を用い、数百の遺伝子を網羅的に検索する遺伝子パネル検査がすでに導入されています。前任地の奈良医大では研究レベルで NGS を用いて多くの領域でパネル検査を実施し、臨床での遺伝子診断の有用性ととも、限界や問題点も経験してきました。この検査に供する検体は核酸の質的、量的確保が必須ですが、現段階ではその対象は病理検体が中心です。日常的に行われている病理診断の検体の処理方法の原則である速やかな固定、最適な固定時間を厳守することが、核酸の保持にも繋がります。そして、不適切な検体処理は挽回することはできず、患者さんの不利益となります。検体が患者さんの体を離れて以降の全てのプロセスを臨床医と連携しつつ、病理部門が適切に管理することが求められており、当院ではゲノム医療に対応する体制が整っております。

がん診療連携拠点病院を支える病理診断センターとして、治療方針の決定、治療の効果評価に寄与する的確な病理診断を提供すべく、常勤病理医2名に加え、4名の非常勤医師が各々の専門領域を担当しています。私、大林は肺癌や中皮腫の組織規約分類に永年携わっており、非常勤の伊藤（利）とともに呼吸器領域を担当いたします。本院の特徴の一つは乳がん症例が非常に多いことですが、最終報告までにはセンチネルリンパ節や断端の迅速診断、バイオマーカー検索など、多くの手技を要します。乳腺を専門領域とする田代科長が臨床医と緊密に連携をとりつつ、質の高い診断を提供しています。消化管領域は経験豊富な藤盛と西上、リンパ腫血液領域は伊藤教授（神戸大学）の強力な支援を得て、7名の細胞検査士を含む8名の臨床検査技師とともに、一丸となって取り組んでいます。

病理診断には検査技師、病理医と主治医の連携が重要であり、相互の意思疎通と十分な情報共有があって、精度の高い診断が可能です。地域の先生方から診療情報を頂戴することもあろうかと存じますが、どうぞご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

# 開業医探訪

Vol.64

## 森垣胃腸科外科

今回の開業医探訪は、東灘区御影、山手幹線そばで診療にあたった「森垣胃腸科外科」へ訪問致しました。

### —— 診療を開始されてどれくらいになりますか？

祖父の代より神戸を拠点に過ごしてきました。そして、1988（昭和63）年12月この場所で診療を始めました。現在33年目になります。

### —— どのような患者さんが来院されますか？

開院当初は、自院での治療完結を目指し、各種検査から入院・手術加療まで一貫して取り組んできました。術後や定期的なフォローを目的に長年来院される方が多くおられます。最近は初診予約システムを導入し、当院が「胃腸科外科」という名称ですので消化器症状で予約来院される若い方も多くなりました。

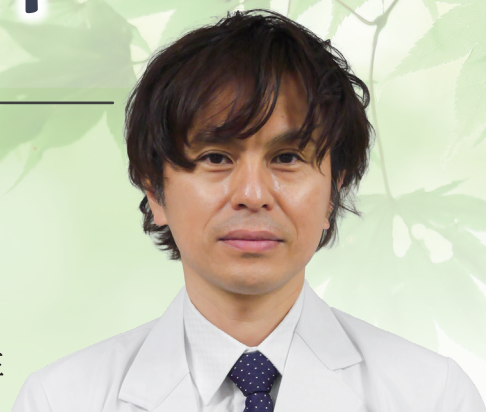
# 新部長挨拶

# 循環器内科

## 循環器内科 部長 太田 総一郎

神戸大学 平成6年卒業

- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本内科学会認定内科医・指導医
- 日本循環器学会認定循環器専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会専門医



### はじめに

2022年4月に神鋼記念病院循環器内科部長として着任致しました太田です。出身は神戸市で、1994年に神戸大学を卒業後、神戸大学の旧第一内科（現在は循環器内科学講座）に入局しました。その後、兵庫県内の複数の総合病院で循環器疾患の診療に携わってきました。主な専門分野は、冠動脈に対する経皮的冠動脈形成術（PCI）、下肢動脈に対する血管内治療（EVT）などのカテーテルインターベンション治療です。

### カテーテルインターベンション治療について

#### 1. PCI（経皮的冠動脈形成術）

少し以前の話ではありますが、2020年4月に冠動脈デバルキングデバイスの施設基準が見直されました。これにより、当院のように心臓血管外科医が不在の施設においてもデバルキングデバイス（ロータブレードやダイヤモンドバック等）の使用が可能となりました。当院では2020年10月よりデバルキングデバイスを使用できるようになり、従来であれば他施設に治療を依頼していたような石灰化の強い冠動脈病変に対してもデバルキングデバイスを用いたPCI治療も積極的に行っています。

#### —— 診療にあたり心掛けていることは何ですか？

私自身が何度か病気を経験するなかで、早期に病気を発見・治療することの大切さを痛感しています。検査や結果説明、治療開始までに時間がかかると病気が進行する場合もあり、長期休暇が必要な場合もあります。精神的な負担もかかりますので、一日でも早く元気に復帰してもらえよう、できる限り速やかに検査を行うよう努め、必要に応じて速やかに適切な機関に紹介するようにしています。

#### —— ひとこと

様々な症状を抱えて患者さんが来院されます。信頼関係を築けるよう、些細なことでも相談頂き、安心してもらえるよう努めてきました。引き続き患者さんに安心して来院頂けるよう取り組んでいきます。また地域の診療所として、症状に応じて他院へ紹介するいわば「交通整理」の役割を担っていただければと考えています。

### 森垣胃腸科外科

〒658-0047 兵庫県神戸市東灘区御影 1-12-9

TEL：078-851-0300

院長：森垣 驍

| 診療時間<br>(受付時間) | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00～12:00     | ○ | ○ | ○ | / | ○ | ○ | / |
| 17:00～19:00    | ○ | / | ※ | / | ○ | / | / |

※ 水曜午後は、16:00～18:00まで。  
検査予約日のため一般診療は行っておりません。

休診 火・土曜の午後、木曜、日曜、祝日

またこれまでは薬剤溶出性ステント（DES）による PCI 治療が主流でしたが、最近ではステントを使わない PCI 治療が注目されています。病変形態にもよりますが、当院においてもステントを使わずに薬剤コーティッドバルーン（DCB）による PCI 治療を行っており、良好な成績をおさめています。

## 2. EVT（血管内治療）

当院では下肢閉塞性動脈硬化症に対してカテーテルによる血管内治療（EVT）を積極的に行っており、治療件数も年々増加しています。2022年3月に改訂された末梢動脈疾患ガイドラインでは、EVTの役割が拡大しており、また市民・患者さんへの情報提供と啓発が強調されています。下肢閉塞性動脈硬化症に対する EVT においても多くの新しいデバイス（ステント、薬剤溶出性ステント、薬剤コーティッドバルーン等）が次々と開発されており、病変形態に応じた使い分けが必要です。下肢の壊死を伴うような下肢閉塞性動脈硬化症に対しても、下肢切断回避と切断範囲の縮小を目的として当科では EVT を行っています。下肢の切断が必要となった場合には、形成外科やコメディカルスタッフと連携しながら包括的治療を行っています。

## 全身性動脈硬化症について

動脈硬化は全身の動脈で起こり（全身性動脈硬化症）、生活習慣病の1つです。下肢閉塞性動脈硬化症も全身性動脈硬化症であり、予後不良であることが分かっており、しかも近年増加傾向にあります。PCI や EVT は冠動脈や下肢動脈の動脈硬化性病変に対する局所的なカテーテル治療ですが、全身の動脈硬化を意識した治療が必要です。すなわち全身性の動脈硬化症に対する一次予防と二次予防が重要です。このためにはガイドライン

に準じて、患者教育、生活習慣の改善、脂質・血糖・血圧のコントロール、抗血小板剤の投与などが必要です。動脈硬化症を全身性の疾患と捉えることにより、カテーテル治療を行うだけでなく、全身の管理が重要となります。当科においては、他科の診療科スタッフやコメディカルスタッフとも連携をとりながら、包括的な治療介入を行うことを心がけています。

## おわりに

循環器疾患は多岐にわたります。今回ご紹介したカテーテル治療を要する動脈硬化性疾患以外にも多くの循環器疾患があります。当院循環器内科では現在6名のスタッフで循環器疾患の診療を行っています。総合病院の循環器内科としては小規模ではありますが、他の医療機関の循環器内科にはない専門性の高いスタッフが充実しています。具体的には高血圧症と肺高血圧症のスペシャリストが水準の高い診療を行っており、特にこの領域においては兵庫県内でもトップクラスの医療を提供しているものと自負しております。また急性冠症候群、急性心不全等の緊急を要する循環器疾患に対しては、24時間いつでも対応できるようにオンコール体制を整えています。当院では少数精鋭の循環器内科スタッフが高水準でバランスのよい診療を行うことにより、地域医療に貢献できるように心がけています。

循環器疾患で何かお困りのことがございましたら、どんな些細なことでも神鋼記念病院循環器内科にご相談ください。神鋼記念病院循環器内科をどうぞよろしく願いいたします。

# 新部長挨拶

## 整形外科

整形外科 部長／科長

藤田 俊史

京都府立医科大学 平成11年卒業

- 日本整形外科学会専門医
- 日本手外科学会専門医



4月より神鋼記念病院整形外科に異動してきました藤田と申します。私は平成11年に京都府立医科大学を卒業した後、宇治徳州会病院、日本赤十字社和歌山医療センター、京大病院、三菱京都病院、神戸市立医療センター中央市民病院と20年以上急性期病院の整形外科医として働いて参りました。前任の神戸市立医療センター中央市民病院では上肢外科医として7年間、肩・肘・手関節鏡を用いた手術など慢性期疾患を数多く経験させていただきました。同時に上肢外科のチーフとして切断肢、重症四肢外傷など急性期疾患にも日夜精を出しておりました。そもそも外傷はその日のうちに手術加療することが当然の環境に長く慣れてきましたので、神鋼記念病院の穏やかな雰囲気は逆に落ち着きません。こちらに来てまだ1ヶ月ではありますが、救急外傷医療に関しましては、ソフト面ハード面ともに課題が多く地域のニーズに全て応えていくのは正直前途多難と感じております。かつては当院整形外科もスタッフが6・7人いた時があったようですが、現在は4名体制で運営しており、問い合わせ症例を全例応需することは困難です。当面は患者さんの不利益にならない範囲で対応させていただき、最大限地域医療に貢献させていただきたいと考えています。

整形外科の対象疾患は慢性疾患もたくさんあります。当院における脊椎外科はリハビリテーションセンター長の折井先生が熟練の技で担当しております。また、人工関節をはじめとする関節外科は、主に増田先生が術前3Dシミュレーション等駆使して担当しており、外傷系は主に若手とはいえベテランの正木先生が担当しております。私は許

されるのであれば私のライフワークである肩、手を中心に上肢外科に邁進して行きたいと考えています。また、前部長の西田先生が頑張っておられた膝の低侵襲治療もできれば続けて行きたいと考えています。マンパワー不足ではありますが、その分経験と仕事の効率化によって安定した治療成績を維持していければと考えています。まだ短い付き合いではありますが、大変優秀な病院スタッフの方々には感謝しております。

神鋼記念病院は京都大学整形外科学教室の神戸4病院（中央市民、西市民、西神戸医療センター、神鋼記念病院）の一つとしてこれまでも定期的に症例検討、勉強会、新人勧誘で密接に連携して参りました。神戸には大学の垣根を越えた整形外科の集まりも多く、そういった地域連携を活かして患者さんには最良の医療が提供できればと思います。

微力ながら神鋼記念病院の発展に尽くして行きたいと考えています。今後ともよろしく願い申し上げます。

最後に就任挨拶の文面で恐縮ではありますが、趣味で保護猫活動をしている手前、里親募集の話をしていただきます。現在、我が家は奥さんと2人の子供と2匹の保護猫の6人暮らしで十分賑やかではありますが、時に里親が決まらない子猫など預かると、家中猫だらけで大変です。猫は大変癒されますが、猫アレルギーの自分にとっては2匹が限界です。もし、猫を飼いたい方がおられれば（紹介でも結構です）藤田に声をかけていただければ幸いです。

## 第18回 医療講演会 ～最前線の診療～

**日時** 2022年5月26日(木)  
17:30～18:30

**演題** 『Q&A で学ぶ  
外来感染症診療』

**演者** 神鋼記念病院 感染症科 香川 大樹

**申込方法** 参加をご希望の方は、施設名、氏名、ご連絡先(電話番号・メールアドレス)を下記メールアドレスまでご連絡ください。  
yamagami.hiroko@shinkohp.or.jp

**お問合せ** 神鋼記念会 総務室 山神 TEL:078-261-6711



## 第6回 神鋼記念病院 連携医と集う会

今年度の『連携医と集う会』につきましても、WEB (Zoom) で開催させて頂く運びとなりました。どうぞお気軽にご参加下さいますようお願い致します。

**日時** 2022年6月16日(木)  
18:00～19:30

1. 開会のあいさつ 院長 東山 洋

2. 講演 座長: 地域医療連携センター長 鈴木 雄二郎

①『上腕骨近位部骨折治療に対する私のこだわり』  
整形外科部長 藤田 俊史

②『全身性動脈硬化症について』  
循環器内科部長 太田 総一郎

3. 新任医師のご紹介

4. 閉会のあいさつ 地域医療連携センター長 鈴木 雄二郎

**申込方法** 参加申込書(別紙)に必要事項をご記入のうえ、FAXを送付下さい。

**備考** 日本医師会生涯教育1単位申請しております。

**お問合せ** 地域医療連携室 078-261-6739 (直通)



# Medical News

2022年5月  
Vol.178

Shinko Hospital

## Contents

- 新センター長・部長挨拶  
病理診断センター  
循環器内科  
整形外科
- 開業医探訪
- インフォメーション

### ■神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

### ■基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会  
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-4-47  
TEL:078-261-6711 (代表)

FAX:078-261-6726

URL:<https://shinkohp.jp>

発行責任者: 理事長 山本 正之

編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長  
松本 元

講演会などの  
詳しい情報はこちらから!!

<https://shinkohp.jp>